



イラスト・佐竹政紀

キュリー夫人 1867~1934年。ポーランド生まれ。1903年、放射線の研究でノーベル物理学賞、11年にラジウムとポロニウムの発見などの業績でノーベル化学賞を受賞。女性初のノーベル賞受賞者で、初めて2度のノーベル賞受賞者でもある。娘のイレーヌもノーベル化学賞を受賞している。

「物とは何か」探る学問

建物や着る物、食べ物。物とは何か

ムとラジウムを発見。この功績で一九一年にノーベル化学賞を受けました。化学は、なじみがないかもしれません。でも、「実は身近な学問。みんなの身の回りにある建物や着る物、食べ物、わたしたち生き物など、物が何からできているのか

にあたる今年は、「世界化学会賞」を受賞してから百年です。去年、ノーベル化学賞を日本人研究者二人が受賞するなど、日本はこの分野で世界トップクラス。化学とはどんな学問なのでしょう。世界化学年日本委員会実行委員長で、早稲田大学先進理工学部長の西出宏之教授に聞きまし

(市川博正)

「今年は化学の年として、実験教室などがたくさん開かれます。みなさんは実験でおもしろがってください。西出先生は、世界化学年は100周年の国連総会で、若い人たちに化学への興味を持つくらいのことを目的に定められました。

西出先生は、世界化学年という学問は十八世纪から發展し、観察や実験によつて水素や酸素など物質を作り立たせている基本的な要素の「元素」などを明らかにしてきました。キュリー夫人は放射能について研究する中で、放射能を持つ元素であるボロニウム

を明瞭化しました。シャツが何からできているかを細かく見ていいくと、「布→糸→織維」となります。シャツに使われる素材は「エスティル繊維」が多く、化学用語では「ポリエチレンテ

ク、医薬品、食品、洗剤、電子機器の材料など、身の回りのさまざまな物が化学の力を借りてできています。化学の魅力を、西出先生は「地球上にない物をフランスコやビーカーの中で作り出せるもののほか、予想もしなかった物が出てくる意外性」といいます。

去年、ノーベル賞を受けた鈴木章さんと根岸英一さんの「クロスカットプリント」の技術も、さうはつかない炭素同士を、パラジウムという金属を触媒を使ってつなげるという意外性があります。

現在、日本は鈴木さんや根岸さんをふくめ、七人がノーベル化学賞を受賞しています。日本人のノーベル賞受賞の分野で最も多くなっています。こうした日本の化学レベルの高さについて、西出先生は「ヨーロッパやアメリカを別にすれば、日本は明治時代から化学生を重要な学問と考え、百

年以上の長い歴史があるからであります」と語ります。

西出先生は、「今年は化学の年として、実験教室などがたくさん開かれます。みなさんは実験でおもしろがってください。西出先生は、世界化学年は100周年の国連総会で、若い人たちに化学への興味を持つくらいのことを目的に定められました。

朝日新聞の姉妹紙



©朝日学生新聞社 2011
〒104-8433 東京都中央区築地3-5-4
電話 (03)3545-5223 (広報)
3545-5227 (販売)
3545-5225 (広告)

記事についてのお問い合わせ
電話 (03)3545-5222 (編集)

ご購読の申し込み
お近くのASA(朝日新聞販売所)
ウェブサイト
www.asagaku.com
電話 0120-415843
FAX 0120-415853
(いずれも通話無料)

1か月1720円、1部70円(各税込み)